# 硬筆書法（1年　後期　演習　選択　）

| | |
|---|---|
| 到達目標 | 文字の均整・均衡の美を理解し、文字を正しく美しく、生き生きとした流れや動きの中で安定した文字を書くことを目標とする。古典・古筆を選んで臨書的角度から学んだり、またはがき・手紙・掲示物等の実用的な書式の中で、全体感を大切に、美しく文字を書くことができるようにする。黒板を用いてチョークでの書き方も練習し、体裁の良い文字を書くことができるようにする。 硬筆検定問題にも取り組み、受験して合格を目指す。 |

| | 内容 項目 | レベル　4 | レベル　3 | レベル　2 | レベル　1 |
|---|---|---|---|---|---|
| 持ち方・姿勢 | 鉛筆・ペンの持ち方 | 常に鉛筆・ペンの持ち方を意識し、終始正しいとされる持ち方で取り組むことができた。 | 正しいとされる持ち方を意識しながらで臨んでいるが、時折自分流になったことに気づけばすぐに正している。 | 書きやすい自分流の持ち方で、指摘があれば直している。 | 正しいとされる持ち方がわからない。書きやすい自分流の持ち方で通し、持ち方を正す意識はない。 |
| | 書く時の姿勢 | 常に書く時の美しい姿勢を意識しながら終始取り組むことができた。 | 書く時の姿勢を意識しながら臨んでいる。姿勢が悪くなったことに気づけばすぐに正している。 | 書きやすい自分流の姿勢で、指摘があれば正している。 | 書きやすい自分流の姿勢で、書いている。姿勢において意識は低く、正すこともない。 |
| 制作　他 | 筆圧の変化と呼吸 | 運筆が停滞せず、自然な動きと呼吸で生き生きとした線が表現できた。 | 自然な動きと呼吸を意識しながら書くことができた。 | 自然な動きや呼吸が理解しづらいが、意識しながら書いている。 | 自然な動きや呼吸が理解できず、表現もできない。 |
| | 行書における連綿 | 自然な流れの中で、癖のない連綿を効果的に表現できた。 | 自然さに欠ける部分はあるが、連綿を意識し、表現できた。 | 自然な連綿ができず、連綿の効果が理解できない。 | 連綿の効果や美しさを理解せず、単体で書いている。 |
| | 漢字と平がなのバランス | 漢字は平がなより大きく書けている。また、個々の文字にも大小や伸縮が体裁よく表現できている。 | 漢字は平がなより大きく書けている。また、個々の文字にも大小や伸縮を意識しながら表現した。 | 漢字と平がなのバランスがぎこちない。不自然ではあるが、努力した。 | 漢字と平がなのバランスがぎこちなく、どう対応すればいいかわからない。 |
| | 行立て（縦書き） | 行の中心を捉え、自然な流れの中でまっすぐに書くことができた。 | 行の中心を捉え、ほぼまっすぐに書くことができた。 | 所々に行のゆがみがあるが、まっすぐに書こうと努力している。 | 行の中心を捉えることが難しく、まっすぐに書くことができない。 |
| | 紙面の余白 | 紙面に対する文字の大きさや、上下左右の余白部分が明るく取られ、体裁よく納まっている。 | 余白を意識しながら、表現することができた。 | 余白の理解はできるがあまり表現できなかった。 | 余白の理解が難しく表現できなかった。いつも余白が出せていない。 |
| | 日常の筆記について | 授業外の日常筆記においても、美しく体裁よく書こうと心掛け、常に意識レベルを高くして臨んでいる。 | 時折思い出しながら、日常筆記においても、美しく体裁よく書こうと心掛けている。 | 日常筆記においては改善できず自分流で書き、努力していない。 | 日常の筆記や自分の書く文字に興味を持たない。 |